
ただの日常

あんぱん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ただの日常

【著者名】

あんぱん

【あらすじ】

普通に過ぐす日常の、ほんの一コマ。

(前書き)

急に書きたくなって書いた。後悔はしていない。

「ねえ

「んあ……？ 何だ、あんたか」

いつもの毎休み、俺はいつものように屋上で不貞寝をしていたのだが、急に揺さぶられた。

眼を開けてみれば、そこには長い黒髪を持った、いかにもな美少女。

その髪は、暑いんじやないかと思つぽひに黒く、綺麗で……彼女の瞳は奈落のように、底なしに黒かった。

「…………

「……？ 何かしら？」

「つ、あ、いや、何でもない。てか、話があんのせよしちだろ」

その容姿に一瞬見惚れたが、何とか応えることが出来た。

コイツは、1年の時に同じクラスだった女子だ。

特にこれと黙って接点だなかつたのだが、この美貌を見て、一目で記憶に焼きついたのだ。

彼女は、俺の言葉に鷹揚に頷き、話し出す。

「そうね。私は貴方に話がある」

「だから、その内容は何なんだよ」

「…………」

な、何だろうか。いきなり黙つて俯いちました。

表情は、少し長めの前髪で隠れて窺い知れない。
俺は、如何すればいいのだろう。

「…………その、ね」

「ああ？」

漸く喋り出したと思ったら、最初の威勢は何所えやら、細い声で話しかけてきた。

「コイツ、本当に“アイツ”なのだろうか。
本来のアイツは、もつといひ、毅然としてた筈で、どこか自己中心的な感じがした筈なんだ。

だけど、今のコイツは、まるで……。

「私、前から貴方のことが……」

「…………」

まるで、コイツは……。

「……だひつな

宿敵に立ち向かう、主人公の様だ。

そう、つい最近からこんなことが始まった。屋上で俺の貴重な睡眠時間を、コイツは見事に潰しに来るのだ。俺の事が嫌いに決まってる。

ナウジやなきや何なんだよ……。

今までも、こんなやり取りを繰り返しているのだが、最後には決まってコイツが。

「あっ！ やっぱ、今の無しでー。あああっーー！ ビウヒー何時もあそこにある言葉が出るのよー。私のド馬鹿あーー！」

綺麗な黒髪を搔き鳶り、訳の分からぬ状態になるんだ。

そして、俺はそれを向とか宥めようとして、昼休みが過ぎて行く。

これが、俺の日常の一幕。

(後書き)

何だろうか、私はこんな女子が好みだったのだろうか、とても不安だ。

ついでに、知っているか分かりませんが、女子の方のモデルは一乃さんです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5772s/>

ただの日常

2011年10月7日14時53分発行